

令和元年度 倉敷市生物多様性審議会 第1回会議 議事録（要旨）

1 日時

令和元年7月11日 14時00分～16時00分

2 場所

倉敷市役所2階 207会議室

3 出席者

【委員】10名

青江委員、井上委員、片岡委員、河邊委員、木村委員、小橋委員、阪田委員、増子委員、藤原委員、山口委員

【事務局】10名

環境リサイクル局 三宅局長

環境政策部 佐藤部長、吉田次長

環境政策課 塩津課長主幹、行武課長主幹

環境管理係 藤井係長

自然保護係 宗田係長、多田副主任

環境学習センター 安延所長

自然史博物館 高嶋館長

4 欠席者

【委員】2名

小林委員、洲脇委員

5 傍聴者 0名

6 報道関係 0社

7 次第

1 開会・あいさつ

2 議事

(1) 倉敷市生物多様性地域戦略実施事業の進捗について

(2) 話題提供：「生物多様性に関する日本や世界の最新状況」

公益財団法人 日本自然保護協会

広報会員連携部部長 道家 哲平 氏

(3) 戦略の短期的目標年次2020年度に向けたスケジュールについて

3 その他

4 閉会

5 添付資料

資料1 委員名簿

資料2 事業実施計画表

資料3 倉敷市生物多様性地域戦略（説明スライド）

資料4 生物多様性に関する日本や世界の最新状況（講師スライド）

資料5 生物多様性審議会の今後のスケジュールについて

1 議事要旨

事務局	(議事(1) 倉敷市生物多様性地域戦略実施事業の進捗について)
会長	先程の進捗状況の説明について、委員の皆様からご意見やご質問はありますか。
委員	環境学習について、倉敷市の取り組みは単発で終わっているように思う。学校での環境学習について、各学年を通じて継続した取り組みができるとう良いが、現在の教育委員会との連携はどのようになっているのか。
事務局	倉敷市が主催の事業ではないが、昨年度には環境学習センターアスエコと連携して、若手教員や大学生を対象にしたセミナーを開催した。今は具体的な案はないが、教育委員会との連携に取り組んでいきたいと思う。
会長	小学校や中学校の頃から、しっかりと環境教育をしていくことが必要と思う。
委員	市の事業には1年に1回限りのイベントがあるが、同様のイベントを年に何回も実施した方が、リピーターが増えて専門的な知識を持つ子供を育てることにつながる。体験学習のイベントを絞って、重点的に取り組むことも検討して欲しい。
会長	継続した実施のためには、教育委員会も交えた取り組みに力を入れて欲しい。
委員	前回の審議会で、自然史博物館や環境学習センターに参加者が来てくれないとの話題があった。参加者が来るのを待つだけでなく、パネルなどの教材を持って学校などに積極的に売り込んでいくことも、次期計画に盛り込んでどうか。
委員	参加者の元に出かけていくということなら、倉敷市は出前講座を実施している。自然史博物館友の会のイベントでは、昆虫を捕まえるイベントには多くの参加者が集まるが、自然全体を観察する内容のイベントでは参加者が減っている気がする。イベントの目的をはっきりさせれば、参加者はまだ増えるのではないかと思う。 先程の話に戻るが、実施事業計画表にある「学校と連携した自然調査」


	<p>の担当が2部署に分かれているが、目標が同じなら連携して実施したほうが良いのではないか。</p>
委員	<p>出前講座ではこれまでの取り組みと変わらないので、より積極的に向向いて環境教育を実施していく必要があると思う。</p>
委員	<p>出向いていく必要性は感じるが、博物館の学芸員は多忙であり、誰が環境教育を実施するのか考えていく必要がある。</p> <p>学校や保育園の先生の話では、調べたい生き物の名前などがインターネットで検索しても分からず、自然観察を始める最初の部分で困っていると聞く。知りたいときにすぐ知ることができる仕組みづくりが必要。</p>
委員	<p>倉敷市は自然観察会のイベントが少ないのではなく、実施主体が多いため情報がまとまっていないことが課題と思う。市の広報誌などに市民主催の観察会が載せられないのなら、市民がイベントや専門家をすぐに見つけられる仕組みがあれば良いと思う。</p>
会長	<p>多忙な教育関係者に環境教育を取り組んでもらうためには、環境教育の資料作りのサポートができる仕組みづくりができれば良いと思う。</p>
委員	<p>実施事業計画表の基本目標にある「自然環境調査の実施」について。これまでに実施してきたイベントの中で、倉敷市内の各校がどのような自然調査をしているのか分かってきた。これまでに得た情報を次につなげられるよう、環境政策課に情報が集まる仕組みがあれば良いと思う。</p>
講師	<p>(議事(2) 話題提供:「生物多様性に関する日本や世界の最新状況」)</p>
事務局	<p>(議事(3) 戦略の短期的目標年次2020年度に向けたスケジュールについて)</p>
会長	<p>先程の道家先生のお話や、今後のスケジュールについて、何か質問などはありますか。</p>
委員	<p>2020年度までに短期的目標の評価ができていないと、次の目標に進められないのではないか。現在の戦略の評価が必要だが、いつどのようにするのか。評価には多くの労力が必要なので、今から取り組んでいく必要がある</p>

事務局	<p>る。事務局ではどのような計画を立てているのか。</p> <p>今年度2回目の審議会で、短期的目標の評価項目の案を示したい。その評価項目を基に、来年度1回目の審議会で、短期的目標の評価結果を報告予定。</p>
委員	<p>事務局として、短期的目標の評価内容をピックアップしていくということか。</p>
事務局	<p>文章のみの短期的目標について、評価ができるような数値を当てはめてみる。事務局が示した評価項目の案に不足があれば、委員の意見をいただきたい。</p>
会長	<p>評価について、各委員からこれは外せないというところがあれば、検討していただきたい。</p>
事務局	<p>評価と見直しのスケジュールは、事務局としても作業を急いで進めていく。今年度2回目の審議会までに、委員のみなさんに個別に相談することもあると思うので、その際はよろしくお願いします。</p>
委員	<p>倉敷市の地域戦略策定時には、まだ岡山県の地域戦略ができていなかった。今となっては、市の地域戦略をもう少し踏み込んだ内容にした方が良かったというのが、当時策定に関わった者の感想である。</p> <p>その後、SDGs（持続可能な開発目標）などの新しい話題が出てきたが、2020年度の評価の際に盛り込むのか、それ以降の見直しで盛り込むのか。世界の状況を念頭に置きつつ、地域で実施していることが上位計画のどの部分に当てはまるのかを考える必要がある。</p>
会長	<p>世界の状況も参考にしながら、地域に当てはめることを事務局も考えていると思う。</p>
講師	<p>評価は大事だが、そればかりに力をかけてしまい、評価しただけで満足してはいけない。評価から、目標を達成できなかった原因や、次につなげるために必要なことを考え、引き出せることが大切。また、達成できたことを更に伸ばすために必要なことを発見することも大切。評価自体ではなく、評価をどのように活かすのかを考えることが必要。</p>

	<p>地域にどんな取り組みがあるかという情報の収集としては、事務局が全て探すとする大変なので、表彰制度のような仕組みを利用し、向こうから情報がやってくるという発想の取り組みも考えられる。募集要項を工夫すれば、活動団体や活動概要に加えて、その特徴・ノウハウなどが応募団体からアピールされるし、テーマ設定（農業に関する生物多様性の取り組み等）をすれば、そのテーマに応じた関係する団体がどのようなことをしているのかについて、情報が集まってくる。</p>
委員	<p>講師の先生に2つ質問をしたい。</p> <p>先程のスライドで説明された、愛知目標に対応している地域戦略について、何を基準に判断しているのか？</p> <p>また、他自治体での地域戦略や生物多様性の評価の事例があれば教えて欲しい。</p>
講師	<p>地域戦略が愛知目標に対応しているかどうかの基準は明らかでないが、地域戦略に記載されているアクションプランと、愛知目標の関係性を明示しているかどうかをチェックしたものだと考えられる。ただし、愛知目標に対応させることが地域戦略の目標ではないので、地域の生物多様性保全に役立つ内容に地域戦略を作ることが大事であり、愛知目標は、その取り組みを立案する上での、アプローチを明確にした情報・ツールと捉えた方が良い。</p> <p>評価の事例だが、自治体に自然保護に関する研究施設が充実しているかどうかで評価のレベルが異なる。組織が充実しているところは、しっかりと評価しているように思う。</p>
委員	<p>生物多様性の評価をするためには、取り組み前後の基礎的な情報が必要。計画作りも大切だが、何のために作っているのかも大切にして欲しい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

議事録承認

会 長

河邊誠一郎 

署名委員

小橋理絵子 